

平城宮

平城第406次調査 2007. 3. 24

第二次大極殿院 東方官衙地区の調査



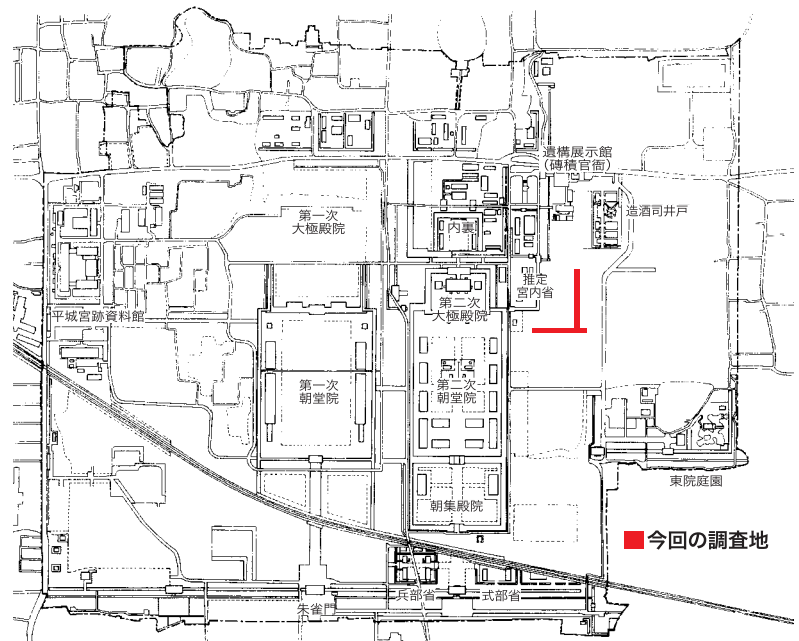
調査の概要 今回の調査は、平城宮の中心にあたる第二次大極殿院と、東張出し部南半の東院地区に挟まれた地域（第二次大極殿院東方官衙地区）の調査です。

今回の調査地北方では、磚積官衙（遺構展示館）、推定宮内省、造酒司などの官衙施設（役所）の存在が明らかにされています。また、この地域には2本の南に流れる基幹排水路があり、水路で挟まれた南北に細長い空間のなかに官衙施設が存在すると想定されています。しかし、具体的な区画の規模や建物配置は不明でした。

そのためこの地域を対象として、今後数年にわたって発掘調査をおこなうことを計画しました。本調査はその初年度にあたります。

調査地北端では、過去の調査で東西の築地を検出しています（第154次調査）。今回は、その南の官衙配置などこの地域の様相を把握することを目的として、幅を6m、南北115m、東西101mの調査区を設けました。また、地下探査の成果も参考としながら調査をおこなっています。

調査は本年1月9日より開始し、現在も継続中です。





桁行10間以上の長大な南北棟基壇建物（南から）



南北長が18.7m、高さが80cmを超える大型建物基壇（南東から）



基幹排水路西方の南北棟基壇建物とその東側の礎石（北東から）



今回の調査で出土した花文様の鬼瓦



官衙区画の間仕切りとして機能した東西築地と落下瓦（北東から）

調査の成果 発掘調査の結果、基幹排水路の東側には、東西約45m、南北約120m以上の区画が存在し、少なくとも2時期の変遷があることが明らかになりました。また、この区画は、東西築地によって仕切られていたようです。区画内の北半には、梁行1間、桁行1間以上の掘立柱建物1棟、梁行2間、桁行1間以上の底を付けた礎石建物1棟が確認され、区画内の南半には、礎石建ちと推定される大型基壇建物を中心とし、その南に、桁行10間以上の南北に長い基壇建物を東と西に配置していたことがわかりました。

さらに、基幹排水路の西側、第二次朝堂院との間において、東西に底を付けた身舎の梁行2間、桁行2間以上の大型基壇建物が検出され、この地区に別の官衙施設が営まれていたことを確認することができました。

平城宮 第二次大極殿院東方官衙地区の調査 平城第406次調査

現地説明会資料 2007年3月24日

(独)文化財研究所奈良文化財研究所 都城発掘調査部

〒630-8577 奈良市二条町二丁目9-1 <http://www.nabunken.jp/>